

経営比較分析表（平成29年度決算）

長野県 長和町

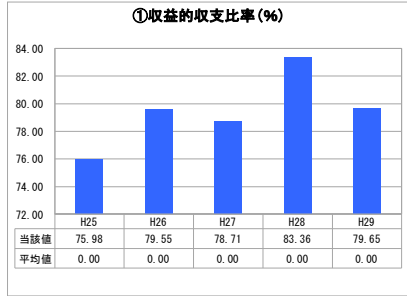
| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|-------------|--------|--------------------------------|
| 法非適用 | 下水道事業 | 特定環境保全公共下水道 | D2 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金(円) |
| - | 該当数値なし | 89.06 | 96.43 | 3,672 |

| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 6,223 | 183.86 | 33.85 |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km ²) | 処理区域内人口密度(人/km ²) |
| 5,513 | 3.11 | 1,772.67 |

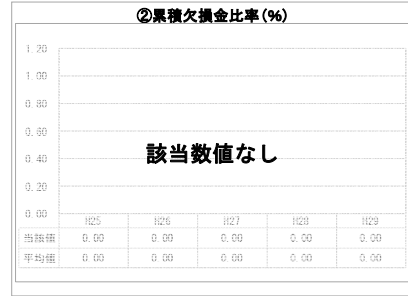
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 平成29年度全国平均

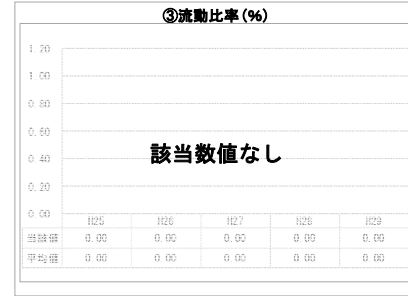
1. 経営の健全性・効率性



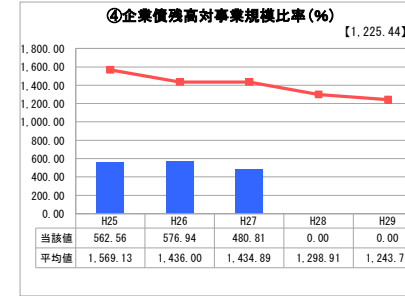
「単年度の収支」



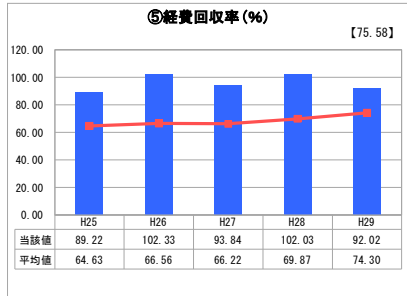
「累積欠損」



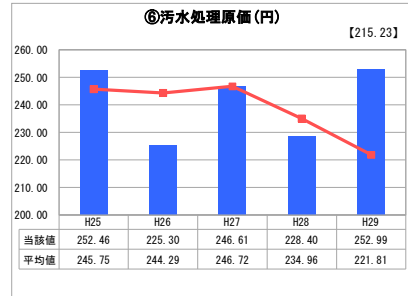
「支払能力」



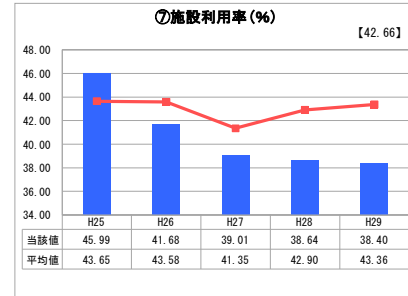
「債務残高」



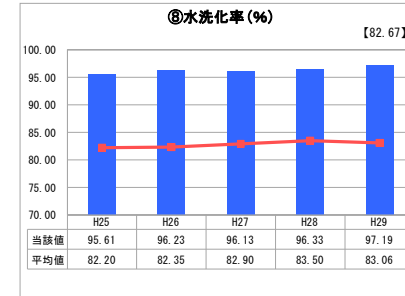
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

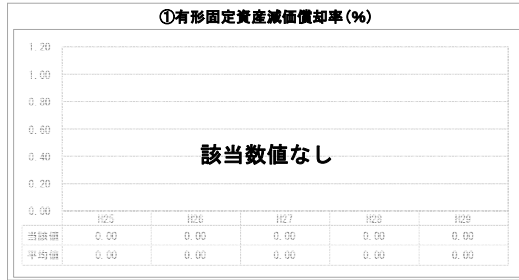


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

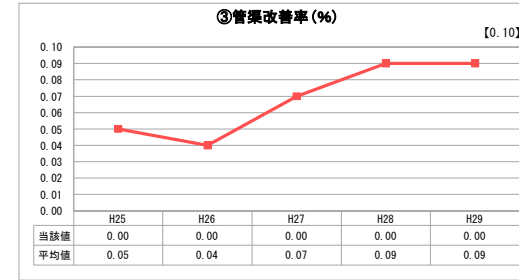
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

企業債の償還がピークを迎えており、使用料収入や一般会計の繰入金だけでは賄いきれず、資本費平準化債を借りているため、収益的収支比率は、100%を下回っています。また、経費回収率は、類似団体の平均を上回っていますが、一般会計からの繰入金への依存度が大きく、厳しい経営状況となっています。

汚水処理単価の増減の要因は、修繕費の増減による影響が大きく、安定的な経営の妨げになっています。また、人口減少の影響から処理水量は、減少し施設利用率も低水準となっています。

今後は改修や修繕等の増加が見込まれるため、機器の適切な管理と計画的な修繕を行うことにより、経営状態の安定化を図る必要があります。

また、施設の更新や老朽化対策を行う際は、規模の見直しも含め検討し、支出の節減に努めていきます。

2. 老朽化の状況について

供用開始から20年が経過しており、適正な時期に各施設の長寿命化をはかる必要があるため、今後、ストックマネジメント計画の策定を行ってまいります。

全体総括

人口減少、施設の老朽化が見込まれる中、継続的な事業運営を行うため、H31年度より企業会計法の適用を行い、経営状況を的確に把握するとともに、経費節減、ストックマネジメントの実施により効率的な運営を行ってまいります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。